



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/28 (月)	▲ 400	▲ 9,600	▲ 10,000	国庫短期証券発行償還(3M)	補完供給 + 100		日: 決定会合における主な意見 (6月17・18日分)
6/29 (火)	▲ 600	+ 6,000	+ 5,400				日: 完全失業率 (5月) 欧: G20外相会合 (イタリア) 米: FHFA住宅価格指数 (4月) 米: 消費者信頼感指数 (6月)
6/30 (水)	▲ 1,000	+ 13,000	+ 12,000			CP等買入 + 5,000	日: 日銀審議委員に中川順子氏が就任 米: ADP雇用統計 (6月) 欧: ユーロ圏CPI (6月)
7/1 (木)	トン	▲ 22,000	▲ 22,000	国債発行償還 (2Y)			日: 日銀短観 (2Q) 米: 新規失業保険申請件数 (6月26日週) 米: ISM製造業景況指数 (6月)
7/2 (金)	▲ 1,000	▲ 62,000	▲ 63,000	法人税・消費税・保険掛け 国債発行 (10Y)			欧: ECB総裁、講演 米: 雇用統計 (6月) 米: 貿易収支 (5月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初535兆3,500億円から始まった。その後、国庫短期証券買入を主因に536兆7,200億円まで増加したが、23日には国債発行を主因に534兆1,200億円まで減少し、535兆8,200億円を越えた。

無担保コールON物は動意に乏しい展開となった。同加重平均金利は、先週末までの流れを受けて△0.026%から始まったものの、その後は週末まで△0.029%～△0.028%のレンジで推移した。

ターム物は6月末までの期間を中心に、主に△0.025%～△0.015%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、30日に中川順子氏の日銀審議委員就任、7月1日に日銀短観の発表などがある。海外では、2日に6月の米雇用統計の発表、ECB総裁の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.050
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.080 ~ 0.00

<レポ>

足許GC取引は週初国庫短期証券買入オペがオファーされたが、先週末と同水準の△0.09%～△0.08%で始まった。以降も週を通して同水準で推移し、短国の入札があった週末もレート水準に大きな変化は見られなかった。SC取引は2年409～425回債、5年138～147回債、10年331～362回債、20年164～176回債、30年69～70回債、40年9～14回債などに引合が多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約9,900億円で、週間償還額 (約1兆2,500億円) を下回った。入札発行市場は、機械や陸運等幅広い業態で大型の発行が見られたものの、事業法人による期末の負債調整の影響もあり、週間では償還超となった。発行残高は先週末の24兆6,335億円から、24日時点で24兆7,099億円に増加した。発行レートは、6月末の大量償還を見据えたディーラーのCP引受需要の高まりを受けて、希少銘柄や期越物のCPについては深いマイナスレートを付ける銘柄も見られ、全体を通して△0.08%台～0%近辺での出合であった。

来週の週間償還額は、約1兆9,300億円程度となっている。発行市場は、月末発行や期明けの発行再開に伴い大型の発行も見込まれるものの、6月末の大量償還 (約1兆9,200億円) を超える発行は見られないと推定され、償還超を見込む。発行レートは、投資家のコロナオペ担保目的等のCP引受需要は高く、オペ対象となる希少銘柄等に対しては引続き深いマイナス金利での出合が予想される。

<TDB>

6月25日の3M1004回債 (2021年9月27日償還) の入札は、最高落札利回り△0.0962% (前回債△0.0991%)、平均落札利回り△0.0982% (△0.1011%) となった。来週は7月2日に3M1005回債 (2021年10月4日償還) の入札がある。